

市政報告 2026 令和 8 年第 2 回定例会・6 月議会報告

会派 市民クラブ 作成者 おざわこうじ
令和 8 年(2026 年)6 月

市民の皆様、日頃より市政運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

令和 8 年第 2 回定例会(6 月議会)において、会派「市民クラブ」を代表して質問を行いました。今号では物価高騰対策・新川周辺の利活用・地域公共交通・コミュニティ活動の推進・不登校支援の 5 テーマについて、質問と答弁の要旨をまとめました。

◆ 物価高騰・中東情勢への対応

物価高騰に加え、中東情勢の混迷によるホルムズ海峡の事実上の封鎖が市財政・市民生活に与える影響を確認しました。

Q 近年の物価高騰が市財政に与える影響は。

A 光熱水費・燃料費・原材料価格の上昇により公共施設の維持管理費が増加。労務費上昇や人手不足により業務委託料も増加し、経常収支比率の高止まりによる財政の硬直化が続いている。

Q 経費増への対応策は。

A 国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金等の活用、有利な地方債の選択、事業の優先順位の精査などにより財源確保に努めている。施設の LED 化など省エネ対策も推進。

Q ホルムズ海峡の事実上の封鎖による影響は。

A 原油輸入の不安定化により公共施設の光熱費やコミュニティバス運行委託料の増加、建設資材調達の困難化が懸念される。最新情勢の把握に努めるとのこと。

住宅塗装や防水工事など、原材料の入荷停滞により業務に支障が出ている事業者もあります。
商工会議所や業界団体の声を聞きながら、具体的な支援策の検討を要望しました。

◆ 新川及びその周辺の利活用の推進

Q 「かわまちづくり計画」の全体像と整備の目的は。

A 八千代市・千葉市・佐倉市の 3 市と千葉県が連携し、新川・花見川にかけて総合的な利活用を推進する計画。本市では県立八千代広域公園周辺に親水護岸を整備し、賑わい創出を図る。

Q 整備の進捗状況と今後のスケジュールは。

A 令和 7 年度に千葉県による設計が完了し基本協定書を締結。親水護岸工事と安全施設工事に分けて施工し、令和 10 年度までに全整備を完了予定。

Q 整備後の活用方法は。

A 日常的な憩いの場としての利用に加え、水上アクティビティや各種イベントの開催など、本市の魅力向上と賑わい創出に取り組んでいくとのこと。

Q 道の駅やちよのリニューアル工事の進捗と目玉は。

A 昨年 10 月着工後、レストラン棟(増築)の杭打工事等を実施中。新川側にレストラン棟を増築し、テイクアウト・物販店舗を新設予定。新指定管理者と連携し新商品開発やイベントを展開予定。

Q 道の駅と水辺拠点の連携による利活用は。

A 「河川空間のオープン化」により、一定の要件を満たせば民間事業者による営業活動も可能となる。千葉県と協議を進め、一体的な活性化を目指すとのこと。

京成大和田駅は本年 12 月に開業 100 周年、来年 1 月に市制施行 60 周年を迎える節目の年です。道の駅やちよと水辺拠点が一体となった、新川流域の活性化を引き続き注視します。

◆ 地域公共交通について

北部エリアのデマンド交通の実証運行に向けた進捗は他議員への答弁と重複したため要望のみとし、早期の予算化に向けた調整を求めました。

Q デマンド型交通の導入により既存の路線バスに不利益は生じないか。

A デマンド型交通は北部エリアの交通不便を補完する位置づけであり、京成バス千葉セントラル・東洋バスが担う幹線交通とは共存できるよう、乗降ポイントや運賃設定で調整を図っていく。

◆ コミュニティ活動の推進

▶ やちよだい東ニマイル広場

Q 広場の活用状況は。

A 地域住民主体の「一般社団法人にあとぴあ」が管理運営。ドッグランや貸農園の運営、駐車場・トイレ・樹木の維持管理などを行い、憩いと交流の場として活用されている。

Q 地域活性化・防災力向上の取組は。

A 「わんニャン祭り&フードフェスタ」を先月開催し盛況。シェアサイクルも運用開始。災害救助団体の活動拠点開設、災害時飲料無償提供機能付き自動販売機の設置など防災対応も進む。

▶ 大和田駅前暫定広場の整備

Q 京成大和田駅前の市所有地の広場整備の進捗状況は。

A 地域要望に基づき、憩いの場・賑わい創出の場となる暫定広場として整備を予定。4 月に地元連合町会へ計画案を提示し、現在調整中。今後改めて提示の上、整備工事に着手予定。

開業 100 周年・市制施行 60 周年という節目の年にふさわしい広場の完成に向けて、令和 8 年度中の着工を強く要望しました。

▶ 市民活動団体公益事業補助金

Q 現行制度の内容は。

A 公益事業型補助金(A ランク:補助率 50%・上限 50 万円、B ランク:補助率 25%・上限 25 万円)と、

新規団体向けのスタートアップ型補助金(補助率 90%・上限 10 万円)の 2 種類がある。

Q 旧「1%支援制度」から現行制度への変更点は。

A 市民投票で補助額が決まる旧制度は不適正投票や申請団体の固定化等の課題があり、令和 5 年度から審査委員による採点方式に変更。今年度は交付基準の導入等も実施。

公益性判定基準の透明化や、スタートアップ型から公益事業型への段階的な支援体制の充実を要望しました。

◆ 不登校支援について

Q 近年の不登校児童生徒数の推移は。

A 小学校・義務教育学校前期課程は令和 5 年度 230 人から令和 7 年度 300 人へ増加傾向。中学校・義務教育学校後期課程は 340～350 人とほぼ横ばい。

Q 包括的な支援体制は。

A 学校内の「校内教育支援センター」と学校外の「フレンド八千代」の二層構造。令和 8 年 4 月に市内全校で校内教育支援センターの設置が完了。

Q 「フレンド八千代」の運営状況と課題は。

A 利用児童生徒からは好評の声がある一方、市南部に位置するため通所しやすさに地域差があり、施設の老朽化(耐震不足等)も課題。

Q 移転の検討状況は。

A 市中央部に位置し交通の便が良い萱田南小学校が有力な候補地の一つ。今年度新設の「多様な学びを推進する検討委員会」で、施設の安全面を最優先に具体化を進める。

不登校児童生徒は増加傾向にある一方、「誰一人取り残さない教育」の理念のもと、校内教育支援センターの全校設置やフレンド八千代の機能強化が進んでいます。移転実現に向けた具体的スケジュールの設定を要望しました。

◆ おざわこうじからひとこと

今回の代表質問で特に注目しているのは、**新川周辺の利活用・不登校支援(フレンド八千代の移転)・物価高騰対策**の 3 点です。

市民生活に直結する施策が着実に進む一方、財源の確保や施設の安全性など、引き続き議会の場で確認すべき課題も残ります。皆さまのご意見・ご相談をお寄せください。

[八千代市議会 議会中継－発言一覧](#)

[おざわこうじ\(オザワコウジ\) | 政治家情報 | 選挙ドットコム](#)

